

企画展

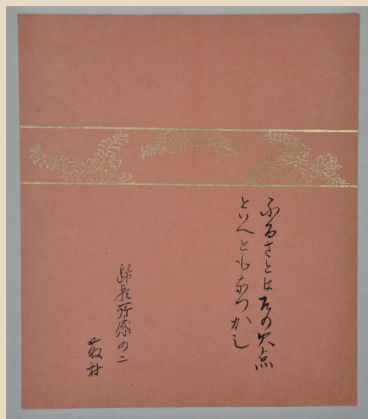
島崎藤村の教え子

小諸義塾卒業生 鷹野勇雄氏が残したお宝展

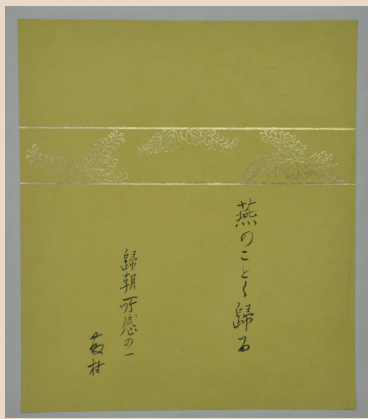
明治から昭和にかけて活躍した作家、歌人、画家らの色紙、絵画、原稿など

島崎藤村の『千曲川のスケッチ』その六「甲州街道」の中に出てくる「丁君」とは鷹野三郎氏のこと。三郎氏の兄鷹野勇雄氏も小諸義塾で藤村に学び、勇雄氏は國學院に進みました。卒業後は「博文館」に勤務し、藤村に度々原稿の依頼をしたといえます。藤村が勇雄氏の求めに応じて書いた『吾が生涯の冬』は明治四十年「中学世界」に掲載されました。その後の『千曲川のスケッチ』（明治四十四年）の連載も、勇雄氏の働きかけによるものです。

大正五年、勇雄氏が両親の金婚式のお祝いに、藤村をはじめ当時活躍していた文人や画家たちからいただいた色紙や絵画などの作品が今も数多く鷹野家に残されています。
本企画展では鷹野家のご協力を得て、勇雄氏が残したお宝を初めて公開します。



島崎藤村
「ふるさとはその欠点
といへどもなつかし」



島崎藤村
「燕のごとく歸る」



中村不折



青木繁

小諸市立藤村記念館

長野県小諸市丁 315 (懐古園内)

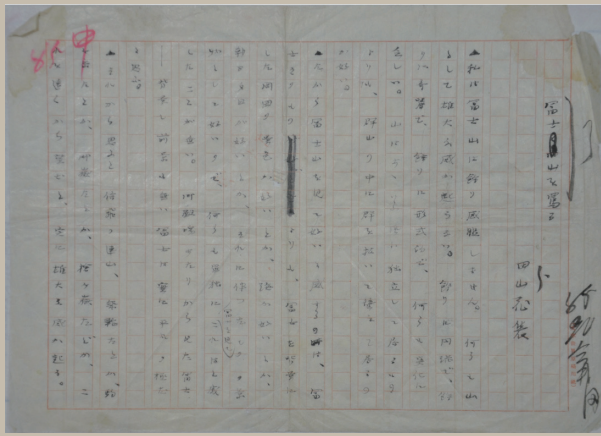
☎0267-22-1130 入館料：懐古園共通券 500 円

期間：令和2年10月10日(土)～令和3年3月21日(日)

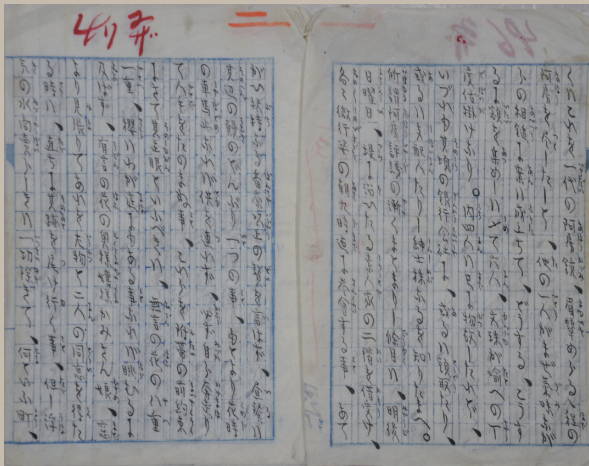
休館：12月29日～1月3日

12月～3月(第2週)の間は水曜日休館

開館時間 9:00～17:00 (12月～3月 9:00～16:30)



田山花袋 「富士山を罵る」



斎藤緑雨 「仕入れ残り」



谷洗馬



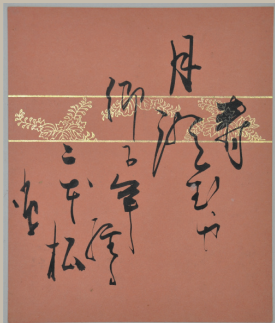
中川八郎



丸山挽霞



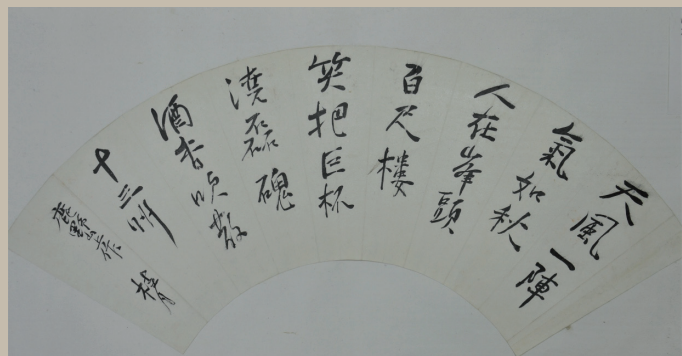
平福百穂



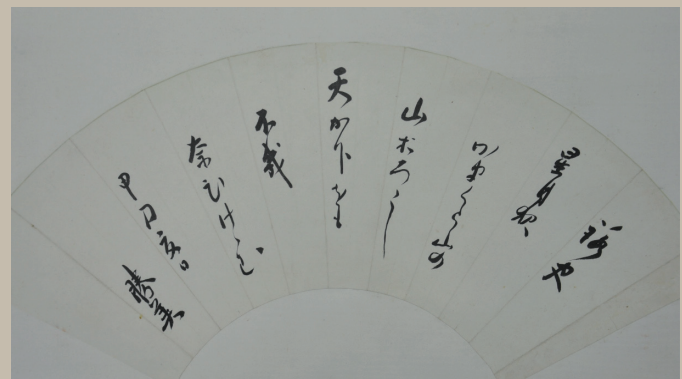
巖谷小波

鷹野氏収蔵作品作者一覧 (50音順)

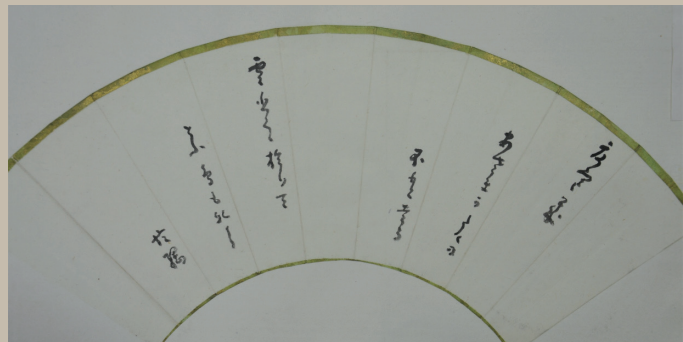
- | | | | | | |
|---|--------|---|------------|---|-----------|
| あ | 青木 繁 | さ | 酒井子爵夫人 | な | 南枝 知一 |
| | 池田 永治 | | 佐々木 信綱 | は | 萩野 由之 |
| | 市村 瓊次郎 | | 猿渡 盛厚 | | 橋本 邦助 |
| | 井出 豊作 | | 三条公爵夫人 千代子 | | 平福 百穂 |
| | 巖谷 小波 | | 島崎 藤村 | | 本間 国雄 |
| | 大口 周魚 | | 下田 歌子 | ま | 松平 乗承 |
| | 太田 南岳 | | 白岩 艶子 | | 松平子爵夫人 総子 |
| | 大町 桂月 | | 杉 敏介 | | 真山 孝治 |
| | 岡野 栄 | | 杉浦 非水 | | 丸山 晚霞 |
| | 小川 千鶴 | た | 武島 羽衣 | | 水野 葉舟 |
| | 落合 直文 | | 竹久 夢二 | | 三宅 花圃 |
| か | 金子 薫園 | | 田中 義成 | | 邨岡 良弼 |
| | 金田 菊三郎 | | 谷 洗馬 | | 森田 太三郎 |
| | 甘露寺 義長 | | 田山 花袋 | や | 矢崎 千代二 |
| | 久保 天随 | | 坪内 逍遙 | | 保間 素堂 |
| | 久保 徳鄰 | | 坪谷 善四郎 | | 山尾子爵夫人 末子 |
| | 黒板 勝美 | | 戸沢子爵夫人 錦子 | | 横山 健堂 |
| | 幸田 露伴 | な | 内藤 鳴雪 | | 与謝野 晶子 |
| | 国府 犀東 | | 中川 八郎 | | 与謝野 鉄幹 |
| さ | 齋藤 緑雨 | | 中村 不折 | | |



大町桂月



黒板勝美



佐々木信綱